



2024 学びの丘学園

第2号

6月5日発行

おかのうえのぼくら

文責: 学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

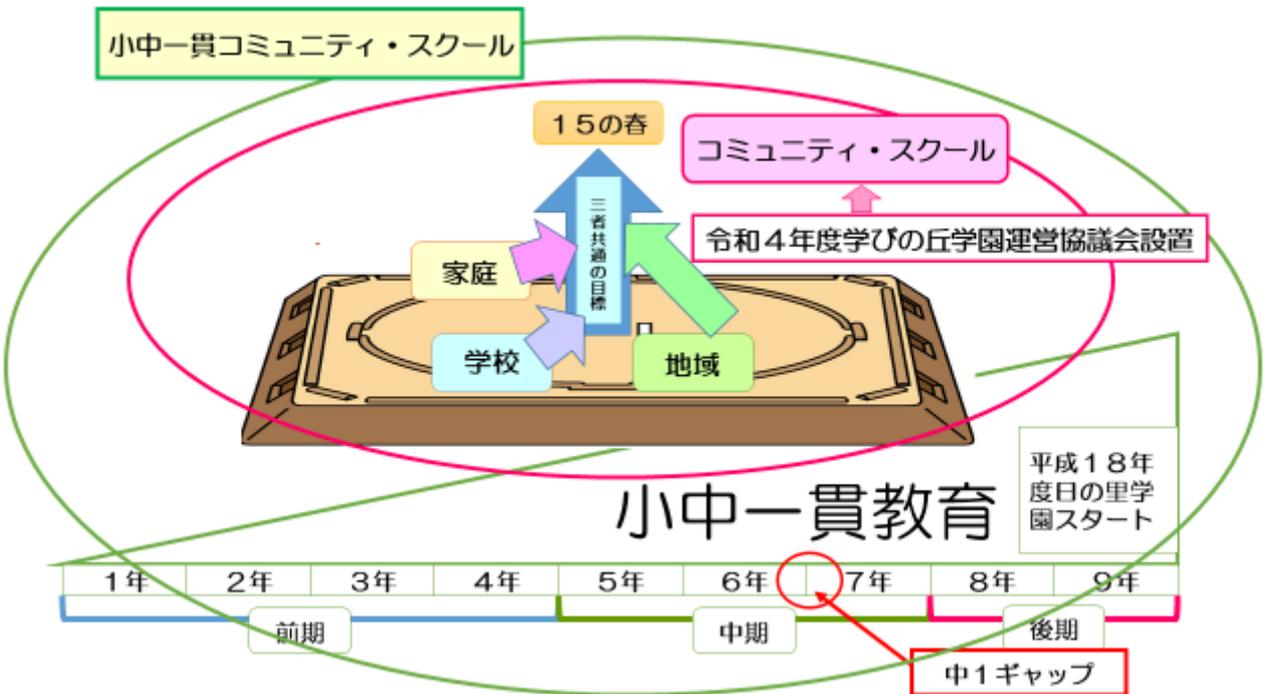
宗像市の教育施策『小中一貫・コミュニティ・スクール』

【解説】(下の図を参照)

宗像市の教育施策『小中一貫コミュニティ・スクール』は、小学校1年生～9年生(中学3年生)までの9年間を見通したカリキュラムを作成し、小学校から中学校の接続をスムーズに行い、中1ギャップをなくそうとする「小中一貫教育」と学校・家庭・地域が共通の目標(9年生が卒業する時の子どもの姿)をたて、その目標に向かってそれぞれでできること協働してできることを推し進め目標を達成するコミュニティ・スクールを合わせた教育施策です。

※コミュニティ・スクールで知っておかなくてはならないこと

1. 学園運営協議会を設置した時点でコミュニティ・スクールがスタートするということ
2. 学校・家庭・地域が子どもを育てる当事者であること(コミュニティ・スクールの意義: 子どもを学校・家庭・地域総がかりで子どもを育てる)



学びの丘学園運営協議会スタート

第1回学びの丘学園運営協議会が5月9日(木)午後6時30分より開催されました。

◆次の方々が学園運営協議会委員として委嘱されました。(14名の運営委員)

学びの丘学園運営協議会委員名簿

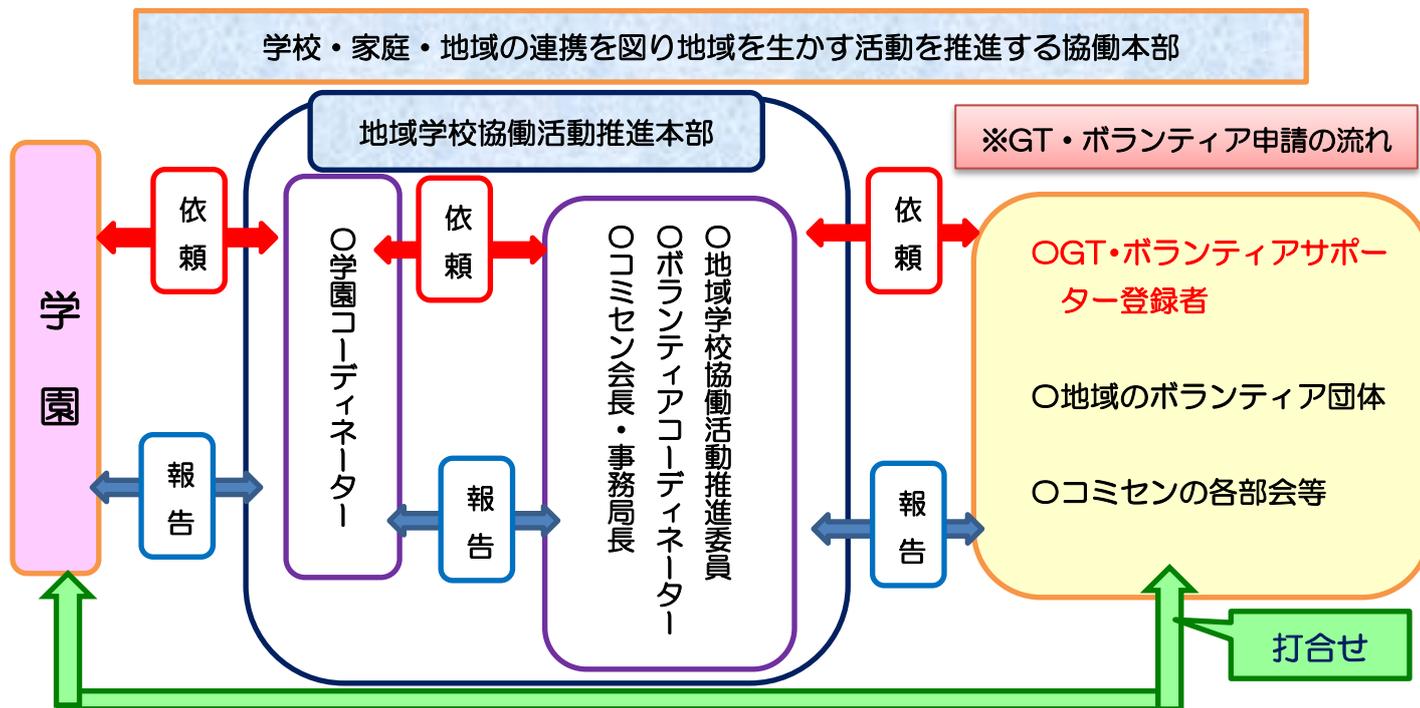
役職等	氏名（敬称略）
福岡教育大学 教授	伊藤 克治
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会ジェンダー平等推進会会長	牟田 貴美子
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 会長	高見 邦雄
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 主任児童委員	小橋 由紀子
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 青少年育成部会部会長	永見 真二
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 青少年育成部会副部会長	占部 光保
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 副会長	今津 理恵
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 子どもおとな会議推進委員長	灘谷 辰生
自由ヶ丘中学校 PTA 会長	西山 知史
自由ヶ丘小学校 PTA 会長	北野 雅英
自由ヶ丘南小学校 PTA 会長	北澤 彰理
自由ヶ丘中学校 元PTA 会長	荒木 慶行
自由ヶ丘小学校 前PTA 会長	舩越 政彰
自由ヶ丘中学校 校長	西島 潔

令和6年度 学校・家庭・地域共通『学園教育目標』

ふるさと「学びの丘」を愛し、夢に向かう子どもの育成
 —学園・家庭・地域が思いを一つに手を携えて取り組む小中一貫教育 CS の展開—

◇子どもたちの教育を支える「ボランティアサポーター制度」

※GT・ボランティアは、事前に二次元コードを使って登録していただきます。



【自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会の重点の取り組み】

1. 自由ヶ丘の都市再生まちづくり計画・・・自由ヶ丘3丁目にバス停設置
2. 自由ヶ丘地区防災計画・・・宗像市と北九州大学が連携し、自治体主体で行う
3. コミセン交流会・・・昨年度好評につき、本年度は、防災に特化した交流会を検討予定
4. 地域の活性化・・・子どもおとな会議、ジェンダー平等推進委員会を中心に進めていく
5. コミュニティ・スクール活動の充実・・・学校の「ふるさと学習」への協力の継続

【子どもおとな会議の本年度の取り組み予定】

1. 昨年度の「花いっぱいイベント」「ポアッキーマップ」「子どもおとな食堂」3つの班の継続活動と新規「第2期子どもおとな会議」の2つで活動していく
2. 東海大附属福岡高校や九州看護大学の学生を募集し、小・中・高・大・大人が地域のことを考える会としたい子どもおとな会議。ジェンダー平等は、推進委員会を中心に進めていく
5. コミュニティ・スクール活動の充実

【学びの丘学園第1回運営協議会熟議】

◇「学び甲斐」部会・「過ごし甲斐」部会・「働き甲斐」（3部会）報告

1. 「学び甲斐」部会

令和6年度立ちあげたサポーター制度を活用していくことが大切である。制度を活性化していくためにサロン等の実施や制度の周知の仕方の検討などをしていく必要がある。

2. 「過ごし甲斐」部会

中高生の居場所づくりは人が集まらない。時間設定を少し早くする。また、相談だけでなく、中高生が集まるきっかけとなるお菓子作りを5月26日（日）に開催する。それをきっかけに、悩みも相談できるような関係づくりができればと思う。

3. 「働き甲斐」部会

昨年度の5年生が「まつりもりあげ隊」として、自由ヶ丘文化祭りに参加したことは、学びに繋がっている。祭りも大盛況でとてもよかった。今年度もまつりを盛り上げる地域に貢献する活動や中学生の関りも増やしていきたい。

指導助言

【福岡教育大学 教授 伊藤 克治 様】

「目指す子ども像の実現に向けた」取り組みという視点で熟議をしているのが素晴らしい。活動に参加する子どもが増えないという課題については、悩んでいる子どもたちが安心して過ごせるようにという目的を第一に考えて場の設定をするとよい。小学生頃から地域とつながりがあると、中学生になって悩みを持った時に、コミセンに出入りして「あの人と話してみたい」という思いを持てるのではないかなと思う。子どもおとな会議については、子どもから大人まで（小・中・高・大・大人）含めるという点で価値がある。

「食育」をふるさとカリキュラムに含めていくという点は、切り口はいろいろあるが、自由ヶ丘は豊かな活動をしているから、食育を通して何をめざすかをしっかりもっておくことが必要である。地域も単なるお手伝いではなく、こんな授業ができそうだという話し合いができれば、本当の意味での「協働」になる。

指導助言

【宗像市教育委員会 指導主事 石川 聡 様】

宗像市は、「食のまち宗像」という施策を打ち出している。学校では、給食を通して地場産のものを食べることを増やし、食に興味をもてるようにしていきたい。1年生～9年生の学びの部分も今までやってきた学習を生かしながら充実させていきたい。学園運営協議会の中で、「カリキュラム」について話し合う計画があることが素晴らしい。学校の中だけで考えるとコミュニティ・スクール（CS）にはならない。地域とともに考えることが大切である。

第二期子どもおとな会議スタート

令和6年5月26（日）自由ヶ丘地区運営協議会「子どもおとな会議」第二期がスタートしました。今年度は、「子どもおとな会議」第二期会議員と昨年度の活動を継続する活動会議員の2つの会議体で進めます。

第二期会議員メンバーには、新たに東海大学付属福岡高校6名、日本赤十字九州看護大学7名が加わり、小学校・中学校・高校・大学・大人と年代や世代が繋がり、様々な意見が反映されやすくなるものと期待しています。



全体会の様子



委嘱状の交付



自己紹介



2班に分かれての情報交流

全体会終了後、第二期会議員メンバーは、自己紹介、2班に分かれて互いを知りあうため情報交流を行ったり、自由ヶ丘についての情報交流を行ったりして人間関係づくりを行いました。



A班：花いっぱいイベント



B班：ポッキーマップ



C班：子どもおとな食堂

活動会議班は、昨年度の活動を振り返り、本年度の具体的な活動内容や計画について協議しました。活動班は昨年度の経験を活かしてより充実発展させる

計画を考え、地域に貢献できる実践を進めていくものと期待しています。

子どもおとな会議は、子どもの目線をいれて、自由ヶ丘をより活性化するための、自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会の目玉となるものです。令和4年度から5年度にかけて 子どもおとな会議員として取り組んでくれた子どもたちほとんどが、引き続き、活動会議員として残り活動をしてくれること。また、新たな第二期会議員メンバー（活動会議員も行う二刀流の子どももいます）として多くの子どもが参加してくれることに自由ヶ丘の希望の光を見る思いがします。